

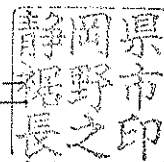


裾公秘第 3 号
平成 19 年 5 月 7 日

中期的な計画作成にあたっての意見

国土交通省道路局長
宮田 年耕 様

静岡県 裾野市長
大橋 俊二



・重点化を進める上で特に優先度の高い政策

静岡県東部地域は、富士山、箱根、伊豆という日本を代表する観光地であると共に優良な工業地域であり、人や物の輸送の主体である自動車交通を担う道路は重要な地域基盤であります。また、安全安心は重要な環境要素であり、予想される東海地震などの災害時の緊急対策にとりましても道路は重要な役割を担っています。地域が健全で安定した発展をしていくうえで、都市間を連絡する広域幹線道路網は不可欠であり、早期の整備が必要と考えます。

つきましては、現在整備が進められている路線はもとより、国道 469 号線（富士南麓道路）、伊豆縦貫自動車道につきましても、国・県のご努力により着々と整備が進められておりますが、まだまだ未着手、未改良の箇所も多く更なる整備・改良が必要となっております。このような地域道路整備の重要性をご理解いただき、特段のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

また、国道 246 号裾野バイパスは、全区間の 4 車線化に向けて事業推進が図られておりますが、すでに 4 車線整備されています裾野市深良、御宿地先の区間におきましては、県道沼津小山線（旧国道 246 号）との併用区間であることや、大規模な工業地域や裾野インターチェンジが近接していることなどから、朝夕の交通渋滞が著しい状況にあります。裾野バイパス沿線は、日本有数の企業工場が立地しており、産業経済や地域を支える重要な地域であります。交通問題が産業の振興や地域の安定の障害となることが危惧されます。また、幹線道路の渋滞を避けて多くの車両が一般市道や生活道路を通行している実態があり、住環境の安全を犯している状況にあります。このことから、早期に当該区間の渋滞解消にかかる道路改良等の実施をご検討いただきたいと思います。

東駿河湾環状道路につきましては、全区間完成に向けた事業促進はもとより、期待する事業効果を早期に現実化するため可能な区間についての供用開始をご検討いただきたいと思います。

・効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと

財政的健全化を進める中で、道路整備の必要性を検証し、効率的な道路政策を行うことは必要なことであると思っております。しかし、効率化による道路整備の縮小や切捨てによって、単に自治体の負担を増加させることにならないように地域の事情に配慮し、道路政策について検討していただきたいと思います。

・道路政策や道路の整備・管理全般に関すること

市財政においても道路整備に要する財源確保には厳しい状況があり、補助金や交付金による財政的支援については、十分な配慮をもってご検討願います。